

今年札幌市内の積雪が例年より早く、冬本番の北海道となりました。

皆様は北海道の動物園といえば旭山動物園や円山動物園を思い描くかと思いますが、実は密かに人気の『ノースサファリサッポロ』を今回ご紹介致します。

こちらは体験型動物園と言い、動物とふれあえる点が珍しく、ライオンやベンガルトラに鉄柵越しですがエサをあげたりする事が出来るのです。ワラビーやマーラ等は放し飼いの状態の柵の中に入って行って観るので、寄って来られると思わず逃げたくりますよ。

園内のデンジャラスゾーンと呼ばれるエリアには入口で誓約書にサインしないと入れないゾーンがあります。その森の中で一番気に入った動物がフクロウです。数十匹いるのですが木の上に放し飼いで、一応足首は木と繋がれています。怖くなければ触れる事も出来ます。勇気がなく遠慮しましたが、改めて見るとフクロウって可愛らしいと思い、飼ってみたいになりましたよ。何はともあれ、通常と違う動物園での楽しみと驚きがありますのでお勧め致します。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

もう年の暮れ、皆さまご多忙の中にも活気あふれる日々をお過ごしのことだと思います。

本年も大変お世話になり御礼申し上げます。

さて、なんだか暖冬な12月ですが、東京都内でもようやく紅葉してきましたので、もみじ狩りに出掛けてきました。都内紅葉ランキングでも常に上位になる文京区本駒込にある『六義園』です。

六義園は江戸を代表する二大名庭園の一つで特別名勝指定となっており、とても広く、丘あり池あり木々沢山の日本庭園となっています。今月上旬に行っても紅葉は所々ではありましたが、ただゆっくりゆっくりと歩き、明治維新後三菱創業者の手に渡ったことなど思い耽りながら、本を読み偉人と対話するかのよう歴史を感じることが出来ました。

すぐ近くの旧古河庭園へも行きました。六義園とは違い洋館とバラの西洋庭園ですが、こちらも江戸から明治へと絡んでおり趣のあるところ。つぎは冬の名スポットを事前検索して是非に行ってみたいと思います。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)



世界の拠点から

-From the base in the world-

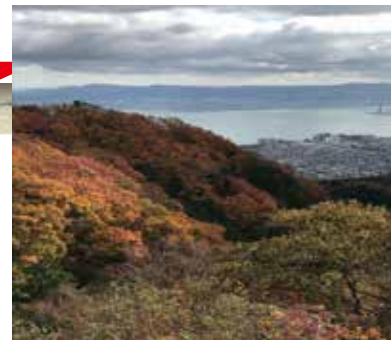


秋も深まりコーヨーシーズン。紅葉の方ですけどね(笑)。

関西も紅葉の名所が多いです。特に京都は見所も多いが人混みも多く、車で出かけても渋滞にはまって動かせません。

そこで京都のお隣の滋賀県へ。今回は比叡山ドライブウェイに行ってきました。ここは世界文化遺産の延暦寺が有名ですがドライブウェイとしても景色が良く、入り口からすぐの地点で紅葉の赤々とした葉と茶色の葉、緑の葉のコントラストでキレイでした。途中のPAでは琵琶湖を見下ろし、周りの紅葉とコラボレーション。曇りだったので写真がキレイに撮れなかったのが残念ではありますが、しっかり目に焼き付けました。今年は来るのが遅く、麓の方は見頃でしたが頂上に行くにしたがって落葉済みの木が多かったです。

来年以降はもう少し早めに行ってみたいと思います。



大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は愛知県一宮市にある、うきうき村を紹介いたします。

一宮市の浮野地区では『尾張の卵』というブランド卵が生産されており、浮野養鶏という養鶏場が運営しているのが、うきうき村です。

『尾張の卵』などの色々な種類の卵の直販と、地物の野菜なども販売しています。朝から行きましたが、卵を求めて多くの来場者がいらっしやいました。皆さん、卵のパックを我先にとたくさん買っていかれていました。(私も、つられて3パックほど購入してしまいました…)

施設内には飲食スペースもあり、そこで朝ごはんとして早速、卵かけご飯のセットを食べてきました。まったく臭みもなく、黄身も非常に弾力のある卵で、久しぶりにおいしい卵かけご飯をいただきました。またその飲食スペースでは、手作りパンやコーヒーもあり、パンとコーヒーのセットなども食べることができます。(もちろんパンの購入・持ち帰りもできます)

皆様もおいしい卵と、卵かけご飯を一度試してみたいかどうでしょうか。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

先日、子供の合格祈願で大宰府天満宮に行った帰りに、以前より立ち寄ってみたい場所があったため、嫌がる息子たちを連れて『宝満宮竈門神社』に行ってきました。

この『宝満宮竈門神社』ですが、縁結びがとても話題になっている神社です。当日は七五三ということもあり、どこも観光客ばかりで、人混みが苦手な私は若干酔い気味。それにも増して、神社の場所が山の中にあるということもあり、結構な傾斜の階段をひたすら登っていく羽目に…。

それでも今年一年のお礼と来年も良いご縁をという願いのため頂上を目指します。時折、赤く色づき始めた紅葉を横目に、自分自身の運動不足を痛感しながらひたすら登りました。

やっとのことで本殿に到着。お参りを済ませて一息ついたところで周囲を見渡すと、目の前には大宰府一面の景色が広がっており、息が上がった身体には最高の眺めでした。

清々しい気持ちでいざ下山しようとした時、本殿の奥から白無垢姿の花嫁様が…。本殿で結婚式を行っていたようでした。幸せなお姿を温かく見守りながら下山をしたことは言うまでもありません。とても良い一日でした。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

最近はいろいろなことがデジタル化され、世の中に変化を招いています。何年か前までは、テレビ、ディスプレイ、電化製品などをかうために店舗へ行くことは普通でした。ジャカルタで電化製品を売っている有名どころといえば、北ジャカルタにある『Mangga Dua』が『Glodok』です。最近ではオンラインショッピングが流行っていて買い物にうお客さんはぐんと減り、実店舗は閉店することもあります。5～6年前まではまさかデジタルビジネスがここまで家電量販店に悪影響を及ぼすとは思っていませんでした。

食べ物についても『GO-Food』というアプリでほとんどの物を発注できます。デジタル化の良いところは若者でも参加でき、美味しい食べ物の食べ方、味付けなどを動画で撮ってFacebook、Twitterなどで宣伝できることです。特に大学生にとってネット販売している食べ物は人気があり、商売として結構流行っています。

家が汚れていて掃除や整理をするのが面倒な時、お金さえあれば『GO-CLEAN』を呼べば綺麗に掃除してくれます。パーティーに行きたくても相手がいない時は『GO-DATE』で相手を用意してくれることもあるそうです。本当に時代の移り代わりが早く、子供に対してもそれなりに時代の変化の速さに気を付けて教育しないといけないと実感しています。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

LA近郊には素晴らしい美術館が数多くあります。その筆頭はJ・ポール・ゲティ美術館、次にロサンゼルス・カウンティ美術館などなど。

今回ご紹介したい美術館はLAの北に位置するパサデナという市にあるノートン・サイモン美術館です。

ノートン・サイモン氏は1907年にオレゴン州で生まれ、1993年に86歳で亡くなった並外れて優秀なビジネスマンで、巨万の富を一代で築いた人物です。彼の手掛けた事業は日本人でもわかるビックネームばかりで、例を出しますとトマトの缶詰やケチャップで有名な食品大手のカナダドライ、化粧品大手のマックスファクター、エイビスレンタカーなどを設立しました。アメリカ立志伝の最高峰のような人物です。

そんなノートン氏が巨大な富を注ぎ込んだのがアートだったので、カリフォルニアあるいは世界の美術愛好家にとって貴重な遺産であることは間違いないと思います。

印象派の画家たちが後世に遺した絵画や彫刻を中心に、中世ヨーロッパの芸術作品から現代美術、さらにインドや東南アジアの美術

～正月休みも返上で～

王さん、李さん、張さん。KHEにもこの苗字の社員が数十人はいるそうです。中国の最も多い苗字トップ3です。中国は苗字の種類は意外に少なく約20,000種類。上位100種類でなんと全人口の80%を占めるそうです。ということは王さんだけでも1億人はいるんでしょうね。一方日本は人口が中国の約10分の1でありながら苗字の種類は30万種類以上あると言われ、中国の15倍以上も多いというのはちょっと驚きです。確かに日本ではとても珍しい苗字がたくさんありますね。

苗字に関する面白い話をもう一つ。中国では結婚しても夫婦同姓にする習慣はありません。旦那さんが王さん、奥さんが張さんでも奥さんの苗字はそのままで。では子供が生まれると？子供が生まれた場合は通常父親の苗字を名乗るのだそうです。まれに母親の苗字を名乗る場合もあるそうですが、そこは家族や親戚も交えての意見、伝統、家柄など簡単にいかない事情もあるようです。

一人っ子政策が2015年に廃止されて以降は2人の子供をもうける夫婦も増えています。ならば2人目は奥さんの苗字をつけよう、という夫婦も増えているそうです。苗字の由来、習慣をたどるのもその国の文化や歴史の意外な面白さを教えてくれます。中国の苗字、掘り下げるともっと面白いことがありそうです。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

作品まで、30年かけてコレクションを作り上げたそうです。

美術館として一般に公開されるようになったのは1974年で、サイモン氏のコレクションを管理する財団によるものです。

前置きが長くなりましたが、ガラス張りの入り口前には『彫刻の庭』と名付けられた庭があり、ロダンのブロンズ像が迎えてくれます。この美術館は展示品の年代ごとに14～16世紀、17～18世紀、19世紀、20世紀、そして地下に東南アジアコレクションと非常にわかりやすく分類されています。ルネッサンス時代の傑作や、バロック絵画などもとても素晴らしいですが、やはりこの美術館の目玉は19世紀、20世紀の作品であると思われます。学校の教科書などにも載っていて一度は目にしたことがあるような有名なモネ、ドガ、ルノアール、さらにゴッホ、セザンヌなどが続きます。20世紀のコレクションではピカソやブラックなどこれまた美術の授業で習ったような画家の作品が目白押しです。中庭にカフェなどもありそれほどの広さはありませんが、一日を有意義に過ごせる癒しの場所です。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

～トイレの利便性…?～

私たちはオートメカニカの展示会のため上海に行きましたが、今回は展示会が終わってから空き時間がありました。

中国の技術進歩には驚かされます。人々は生活を便利にするために最善を尽くしています。

そのとき私たちは大勢の人がいる鉄道の主要駅にいました。トイレに行こうとした時、赤や緑色をした人のイメージが表示された大きなディスプレイが目の前に現れ、その場に立ち止まりました。

これは駐車場の空き状況を示すために使用されているものと同じだと気づきましたが、トイレとはどう関係があるのでしょうか？

トイレの中に入ってみると、ドアの上に赤と緑の表示が付いた個室がたくさんありました。赤は使用中であることを意味し、緑は空いていることを意味します。それを見てようやく、トイレ前のディスプレイは個室の利用状況を示すもので、中の『状況』を素早く知ることができるのだと理解しました。

これは簡素なもので、大多数の人にとってはあまり意味がないかもしれませんが、しかし『緊急』の人にとっては、大いに助かることでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～新年のクッキー～

私たちが住んでいる北ブラバント州では、毎年恒例の古い伝統で『新年のクッキー(Nieuwjaarskoeken)』があります。年末の早朝にパン屋がクッキーを作って準備したり、ケーキに名前を書くため非常に忙しくなります。ケーキはいろんな種類のスパイスとパイ生地による秘密のレシピで作られており、艶出しを施した美しいカール状の文字で、祝福、または新年あけましておめでとうございますの文字が吹きかけられます。ちなみに100年以上前にはそれぞれの家庭で新年のケーキを焼いていました。

これらのケーキはSサイズからMサイズ、Lサイズまで、重さも125gから4kgまで、いろいろなサイズのものを買うことができます。また、パン屋によっては愛する人の名前を書いたり、好きな人をモチーフにしたマジパン等を作るよう頼むこともできます。

また、ビジネス関係者やスタッフに新年のケーキを贈り、お互いに新年の成功と健康を願うこともあります。そのため年末頃になると、どのパン屋にも様々なサイズのケーキが置いてあり、それらを購入してプレゼントとして贈ったり、お祝いの日におやつとして食べたりします。ほとんどの家族はこれらのケーキを家に置いて、お互いお付き合いをしながら、おいしいコーヒーと一緒に食べています。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)